



平成26年3月発行  
宮崎市スポーツ推進委員協議会

第31号

# スポーツ推進委員だより



**杉元雅代 副会長より**



平成26年度に向けて

皆様におかれましては、日頃から生涯スポーツの担い手として、地域で、そして宮崎市でご活躍の事と心から感謝しております。

さて、昨年「スポーツ推進委員」として委嘱され、1年が過ぎました。新人の方は、「スポーツ推進委員ってなんじゃろ？なにをすればいっちゃろ？」と思いながら過ごされたのではないのでしょうか。私も17年前、何もわからず、「地域の事だけやっちゃればいいじゃが」と言われ、「そんなら今と一緒にやが」と気楽な気持ちで受けたところでした。

先日ある文章と出会いました。

人間は、「オギャーッ」と息を吐いて生まれ、臨終の際には「スー」と息を吸ってこの世を終えます。その間の人生は、実に様々です。出会いやチャンスに恵まれた人もいれば、不遇な境遇に嘆きつつ暮らす人もいます。その運不運の分かれ目はどこにあるのでしょうか。それはその人の吐く息にあるのではないのでしょうか。口から発する言葉にあるのではないのでしょうか。

「吐く」と言う漢字は「口」偏に「+（プラス）」と「-（マイナス）」で成り立っています。すなわち口から出る言葉には、積極的に前向きな「プラスの言葉」と愚痴や不平不満の「マイナスの言葉」があるわけです。「吐く」と言う漢字から-（マイナス）を取り去ると「吐う」と言う文字に成ります。思いや望みが吐うのは、「+（プラス）」の言葉を習慣的に発しているからだと言えるのではないのでしょうか。プラスの言葉がプラスの出来事を呼び寄せるのです。

私も本当にそうだと思います。スポーツ推進委員もスポーツを通してたくさんの人と出会い、触れ合います。プラスの言葉をたくさん発し、スポーツの楽しさと大切さを伝え、生涯スポーツの担い手として頑張っていきたいものだと思います。

平成26年もいろいろな事業や研修等が行われます。プラスの言葉と行動で、積極的に参加し、「スポーツ推進委員とは何か、何を成すべきなのか」自分自身で答えを見つけてほしいと思います。これからも、一緒に歩いて行きましょう。



**松竹昭彦 研修部長より**



25年度を振り返って・・・

この1年研修に参加いただきました皆様、また協力いただきました講師や協議会スタッフならびに研修部の皆様に心よりお礼申し上げます。「ありがとうございます。」

研修部として、各種研究大会の参加や関係者の皆さんとのお話の中で、必要とすべき研修企画づくりや、その為の資料整備等の方向が整理されてきた様に思われます。

ちなみに今年度実施した研修（参加人数）は・・・

◎自主研修・・・新人研修会・交流会（44）、コーディネーショントレーニング学ぶ会（37）、  
宮崎市出前講座のための実技演習・交流会（39）

◎自由参加研修・・・コーディネーショントレーニング・ブロンズ指導者セミナー（13）

企画はまだ未熟ですが、最近参加者も増加傾向にあり、「参加して良かった～」との声を頂くことも多数ありました。来年度も社会のニーズや皆さんの期待に応えられる様、また“参加して楽しい研修”を企画していきたいと思っております。皆様のご参加ご協力よろしくお願い致します。





## 松元敏廣 事業部長より



事業部の主な事業は年4回の各種大会。25年度は8月のミニバレーボール、11月のビーチボールバレー、1月の駅伝、3月のグラウンドゴルフが実施されました。各種大会で苦勞するのは、選手の確保、これについては各地区同じ悩みだと思います。特にビーチボールバレーは歴史も浅くまだ普及の段階です。競技人口の拡大と競技性を重視するかどうかが今後の課題です。

事業としての運営は、毎年の反省点が活かされ、選手の皆さんが競技しやすい体制になりつつあります。大会班長をはじめ、班員の方々には一生懸命やっただきありがとうございました。皆さんのご意見、ご提案等をいただきながら、より良い大会運営が行えたらと思います。

今後ともご協力をお願いいたします。



## 第54回宮崎県スポーツ推進委員研究大会

11月30日(土)・12月1日(日) 日南市文化センター

宮崎市からは1日目39名、2日目14名が参加しました。初日は開会行事・功勞者表彰式の後、伝統競技「四半的」と伝統芸能「泰平踊」で盛り上がりました。午後からは「勝利への哲学」と題し、ジョイバレーボールスクールの川添康史氏の講演と、「少子高齢化の実情に適したニュースポーツの普及について」日南・三股・延岡各地区から事例発表がありました。スポーツをする『きっかけ』づくりのお手伝いをし、スポーツができる喜びを味わえるようサポートしていくためにも、私たち推進委員は研修会や勉強会でスキルアップしなければいけないと感じました。(広報部：坂元)



オレンジの  
ジャンパーが  
目立っていました

懇親会で  
行われた  
マグロの解体



## 第56回九州地区スポーツ推進委員研究大会

2月1日(土)・2日(日) 佐賀県総合体育館

大会テーマ：「スポーツ推進委員で築く地域の活性化」～がばいよか！スポーツの新時代に向かって～

○特別講演「スポーツに感謝」 講師：元西武ライオンズ 新谷博氏

スポーツには、なかなか感謝の気持ちは持てない・・・私も中学校の部活で、水は飲めない、怒られ、叩かれと同じような世代を過ごしてきたので共感した。彼ほど、きつくはなかったが、それが嫌で高校は文科系の部活に入った記憶がある。嫌々ながらもずっと野球を続けてきた彼に脱帽した。レクリエーションのスポーツは楽しいが物足りない。勝負を意識した競技としてのスポーツは苦しいが、達成感があるとのこと。なるほどと思った。彼は、スポーツを教える立場になって、やっとスポーツに感謝できるようになったと聞いて、よかったと思った。彼のように自分の苦しい体験をもとに冷静に教えられる指導者が増えてくれると、スポーツ大好きな子どもたちが増えてくれるだろうと感じた。(アンケートより)

夢を語り、夢を追い、充実感・達成感のある生活が、生涯スポーツへと繋がる。小さい頃から、遊びの中で色々なスポーツと出会い、太陽の下、楽しみながら活気あるスポーツと共に成長できれば、スポーツライフに感謝し、それが生涯スポーツに繋がるのだと感じた。(アンケートより)

○基調提案「スポーツの新時代に向かって」 講師：立命館大学教授 中西純司先生

推進委員の仕事は、スポーツ諸活動の健全な推進を目的とし、事業の連絡調整や運営のサポートをする。そして指導者と連携して事業の円滑な実施を支援する。だが、時として押しつけではないかと思われることもある。上記のことをどれだけやってきたか反省です。(アンケートより)

地域の活性化のひとつとして、スポーツ経験のない子どもたちや高齢者が、少しずつ楽しみを見出しながら参加することができるよう手助けすることが重要なのだと思いました。(アンケートより)





○シンポジウム「スポーツの力・新しい時代にふさわしいコーチングの実現に向けて」

講師：東海林祐子氏・ヨーコ・ゼッターランド氏

コーチングも旧態依然の方法では駄目で、選手やコーチ、スタッフ、保護者、及び関係者との信頼関係を築き「命令スタイル」と「協調スタイル」を適切に使い分け、強制と放任（自主性）のバランスが大事。また、部活では学校と連携し全部活の取りまとめ、予算編成、就職の斡旋、ホームゲームのコーディネートなど幅広い気配りが必要になってきた。指導者としての意識改革、体制や対応法の見直しが不可欠。

○分科会「熱意と能力のある推進委員の確保と研修会の充実」

コーディネーター：中西純司氏 他パネリスト3名

実技指導（指導力）、連絡調整（交渉力）、指導、助言（マネジメント力）を行い、コミュニケーション能力を發揮し、地域のことは地域の人が創るというコミュニティの中心になりうる人材が求められている。無関心や依存心、既得権を叫ぶ人たちをどう取り込み、より良い地域づくりを勧めているか、また、楽しんでいるか、人の役に立っているかが問われている。全国の各協議会も高齢化、なり手が無い、少ない、事業への参加率が悪い等、委嘱の問題も含め悩んでいるようだ。高松市協議会の資格認定や活動状況報告は参考にしたい。（平成24・25年度は72単位のうち52単位以上習得しないと次回は再任されない）（広報部：本部）



## 宮崎県スポーツ推進委員協議会・第2回研修会

2月15日(土) 宮崎県武道館

午前の部は「地域のスポーツ振興に関するスポーツ推進委員のあり方」と題し、県教育庁スポーツ振興課の井上譲司氏の講演がありました。その後、各地区の推進委員で構成されたグループに分かれ「スポーツ推進委員のあり方について」討議をしました。どの地区も、なり手が無い、事業へ参加する人が固定化しつつある等、悩みは一緒ということがわかりました。委嘱の方法、地域住民へのアピール、二極化の解消などは、面接による適任判断、広報の活用、推進委員同士の声掛けなど、今後取り組んでいく必要があります。

午後は児湯郡新富町スポーツ推進委員協議会が中心となり、ニュースポーツ（フリンゴ、ラダーゲッター、ドッジビー）とスイミング教室（泳げない子どもを対象とした模擬教室）がありました。私は今回のニュースポーツ全てが初挑戦でしたが、とても楽しく体験することができました。また、各地区の推進委員との交流ができ、有意義な一日でした。ちなみに、フリンゴ（クロス2枚、ボール1個）¥2,980、ラダーゲッター（本体2組、専用ボール12個、得点板1個）¥18,900、ドッジビー（ディスク1枚）¥1,575です。

地域でニュースポーツに取り組んでみてはいかがでしょうか。（広報部：長友）



ラダーゲッター



ドッジビー



フリンゴ



## 第3回宮崎市スポーツ推進委員自主研修会

3月1日(土) 社協・佐土原支所（遊びリテーション）

今回の研修は、「宮崎市・出前講座のための実技演習」というテーマで39名の参加で行われた。

まず、中武委員の指導により、高齢者を対象とした「佐土原ひっこけん体操」で体をほぐした。

次に、ペタンク、ボッチャ、輪投げ、ビーンボウリング、ビーチボールバレー、風船バレー、ドッジビー、大なわとび等のニュースポーツ実技研修を行った。

最後に新濱委員による高齢者のための軽運動を体験し、出前講座の進め方の話があった。交流の部では、9年ぶりの歓鯨館（旧石崎浜荘）にて各地域の活動状況情報交換を行い、スポーツ推進委員同士の親睦を深めることができた。「大なわとび」が達成できなかったことが、非常に残念だった。

（広報部：安藤）





## 第2回地区対抗ビーチボールバレー大会報告

11月24日(日) 佐土原体育館

経験者でなくても誰でも気軽に参加できるようにと、昨年度から「ビーチボールバレー」が地区対抗の種目になりました。昨年度の28チームをはるかに超える49チームが体育館に勢揃いしました。普段から練習しているチームワーク抜群のところや、笑いでは優勝レベルの楽しいチームなど様々でした。この大会への参加、また練習の人集めや声掛けが地域の仲間づくり、コミュニケーションづくりになったのではないのでしょうか。ルールの見直し等も考慮しながら、これから少しずつでも全地区に広まってほしいと思います。

この事業はtotoの助成金を受け実施しました。(広報部：山元)

### 平均年齢39才以下

- 1位：中央A(中央)
- 2位：ダイヤパレス(大宮)

### 平均年齢60才以上

- 1位：大宮役員(大宮)
- 2位：花ヶ島(東大宮)

### 平均年齢40才以上

#### Aパート

- 1位：東花ヶ島(東大宮)
- 2位：柳瀬A(倉岡)

#### Bパート

- 1位：生目台西団地A(生目台)
- 2位：中央(中央)



## 第30回地区対抗駅伝競走大会報告

1月19日(日) 生目の杜運動公園

宮崎市民の大寒の恒例行事として根付いている「宮崎市地区対抗駅伝大会」は今年で30回目を迎えました。大会は、生目の杜運動公園陸上競技場をメインに男子14.6km、女子10.8kmの各6区間の周回コースで行われました。各地区の小学生・中学生・一般の代表が一同に集い、男子15チーム、女子12チームが健脚を競いました。尚、区間賞は宮崎市スポーツ推進委員協議会のホームページでご覧いただけます。(広報部：栗原)

### 男子

- 1位 佐土原A(51分15秒)
- 2位 大宮A(51分45秒)
- 3位 赤江(51分50秒)

### 女子

- 1位 大淀(44分04秒)
- 2位 生目A(45分59秒)
- 3位 佐土原A(47分03秒)



## 第12回地区対抗グラウンドゴルフ大会報告

3月15日(土) 市民の森西運動公園

雲ひとつない青空のもと、20地区から男性119名、女性81名、総勢200名が参加して開催されました。平均年齢75.9歳の選手たちがハツラツとしたプレーで日頃の練習成果を發揮しました。

優勝チームは全員が女性、またホールインワンの最多獲得者も女性、と女性パワーが炸裂した大会でした。最高齢選手は87歳。これからもグラウンドゴルフを楽しみながら益々健康増進に努めていただきたいですね。参加選手の励みになるような大会をめざして創意工夫をしていくことが大切だと思いました。(広報部：佐藤)

### 団体の部

- 1位：鏡(赤江)
- 2位：倉岡A(倉岡)
- 3位：住吉団地GGクラブ(住吉)



### 個人の部

- 1位：佐藤 清明(住吉)
- 2位：西川 真司(櫛)
- 3位：小村 映子(赤江)



## 安藤定美 広報部長より



広報部長を受け、早いもので1年が過ぎようとしています。年3回の広報誌も、優秀な部員6名の絶大な協力のお陰で発行することができました。来年度も広報部員一丸となり頑張っていきたいと思います。今後も皆様のご協力をよろしくお願い致します。

広報スタッフ：部長：安藤定美(佐土原) 副部長：長友ひとみ(江平)

部員：本部伴典(櫛)、坂元孝夫(倉岡)、佐藤由美子(木花)、山元美保(櫛)、栗原和幸(大宮)